

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100731		
法人名	株式会社トランスポート		
事業所名	洛和グループホーム石山寺 1階		
所在地	〒520-0862 滋賀県大津市平津1-13-33		
自己評価作成日	平成27年12月1日	評価結果市町村受理日	平成28年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>石山中学での認知症サポーター講座を継続中です。合わせて、職場体験も来ていただいております。地域との関わりとして、町内の夏祭りに参加しております。夜の盆踊りも見学させてもらっています。敬老会には、1F2F合同でご家族さまもお声かけをし、ホテルでの会食を行っており、交流を深めております。</p> <p>定期的にボランティアに来ていただけてます(フラダンス、手品、由笛など)。今後も多くの方におこしいただけるよう取り組んでいきます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該ホームは、利用者の有する能力ややりたいことをできるように個別の思いに沿って支援をしています。玄関前の菜園での野菜作りのほか、図書館で本を借り写生したり、自宅が果樹園をしていた利用者や果物狩りに出かけたり、船で会社勤めをしていた利用者には瀬田川のクルージングを楽しんでもらうなどその人の趣味や思い出の再現などホームとしてできることに挑戦し、利用者の生き甲斐に繋げています。理念に掲げた「元気であいさつ 明るい笑顔」が浸透し、職員の挨拶や笑顔、良好なチームワークが利用者や家族との信頼関係に繋がっておりホテルでの敬老会には多くの家族の参加が得られています。また、法人を挙げホームが地域の一員としての役割やつきあいを大切にし交流できるよう取り組んでいる事業所です。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に会社理念を復唱している。事業所理念は1・2階共通で、外出時に意識して取り組んでいる	法人の理念を基に作られた独自の理念を継続し、申し送り時に唱和することで職員への意識づけを行っています。地域や家族の方に笑顔で接し、日々の支援の中でも笑顔を決やさないよう心がけています。また、理念に沿ったケアができているかをカンファレンスで振り返り、確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にはなるべく参加している。	自治会に加入し回覧板で地域の情報を得て、夏祭りや盆踊りに出かけ夜店を楽しみながら地域との交流を図っています。中学校の文化祭に出向いたり、職場体験を受け入れるなど学生との関わりもあります。散歩や買い物時には挨拶を交わし、自治会から季節の花を植えたプランターが届いたり、フラダンス等のボランティアの来訪があるなど地域との良好な関係が築かれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校で認知症サポーター講座を毎年行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	GHの取り組みを報告し、会議での意見を参考にしてサービスの向上に努めている	会議は、地域包括支援センター職員や家族等の参加の下2ヶ月に1回開催され、ホームの活動状況や行事の報告を行っています。地域包括支援センター職員より認知症サポート講座の日程案内をもらい講座に参加するなど出された意見は実践できるようにしています。全家族に議事録を送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自治会に入り回覧板など目を通して	法人の担当者が市と関わり情報をもらい必要に応じてホーム職員に伝えていきます。介護相談員を受け入れたり、市主催の研修に参加しています。議事録は運営推進会議に出席した市の職員である地域包括支援センターの職員が届け、手続き等には窓口に出向いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修を受けており、他の職員には伝達研修を行っている。玄関は日中は開放している	法人主催の身体拘束についての研修に参加し、全職員に伝達し周知しています。センサーのチャイムを使用している利用者もいますが安全に配慮しながら外す方向でカンファレンスで話し合っています。不適切な対応が見られた場合は職員間で注意を合っています。玄関は開錠し自由に入りができ、外に出たい利用者には可能な限り付き添って出かけるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修を受けており、他の職員には伝達研修を行っている。		

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。1名後見人とつけていただけるように働きかけ、実現出来た		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を使って説明し、理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設け、早急に解決出来る様に取り組んでいる	面会時や電話の他、アンケートで意見や要望を聞いています。集計した結果は家族に報告し笑顔が増えたとの声もあり、また職員の名前と写真を玄関に掲示しましたが再度意見が出され分かりやすいよう工夫し掲示する予定です。食事に関する要望では食事の形態を変え対応したことで摂取できるように改善されるなどサービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスで意見や提案を聞く機会を設けている	カンファレンスでは全職員に意見を求めたり、日々の業務の中でもケア上の意見や提案があり、またそれぞれの担当者からも意見が出されています。提案を受けて新人職員に一日の流れが分かるように業務確認表の案を作り検討するなど、業務改善に繋がっています。年2回及び随時にも個別面談を行い個別に意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の力量評価を年2回行い、キャリアパス研修も取り入れ状況を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の年間研修計画にそって、まず、職員の希望を聞き、参加してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加して、意見交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居担当者が、きめ細かな対応をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面談の時にご家族様に意向の確認、利用者への聞き取りで確認し繋げている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	過去にとらわれずに現状の分析も行ないアセスメントし他のサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に支え共に生きる」を念頭に置いた支援を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には細かく様子を報告し、職員では支えられないところをお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は本人の希望にそって出かけている。 美容室もなじみの場所に行っている	友人や知人の面会時には椅子やお茶を用意し、ゆっくりしてもらえるよう配慮しています。ドライブを兼ねて元住んでいた地域へ出かけたり、船に乗って勤務されていた方には瀬田川クルージングに出かけるなど馴染みの場所へ職員が同行し個別の外出支援に取り組んでいます。家族と墓参りに出かける時は身支度の支援や年賀状のやりとりや電話の取次ぎ等馴染みの人や場との関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席に配慮して孤立しない関係作りをしている		

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も相談があれば応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使い把握に努めている	入居前の面談時に本人、家族から趣味や意向等をアセスメントシートに記載し、分かる範囲で書いてもらった家族の情報や元ケアマネジャーからも情報収集し思いの把握に努め職員間で共有しています。カンファレンスでは日々の記録や職員の意見を聞き話し合い、本人本位に検討し思いや意向の把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使いアセスメントしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録から職員で考えカンファし把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は本人や家族の意向を聞き意向に沿ったプランづくりをしている	介護計画はアセスメントや本人、家族の希望を基に作成しています。初回の計画は1ヶ月で評価を行い3ヶ月で見直しをし、その後は6ヶ月毎に計画作成者が職員の意見をまとめモニタリングと再アセスメントを行い、1年で更新しています。サービス担当者会議では事前に聞いた家族や医師、看護師の意見を希望用紙に記載し、現状に即した介護計画に繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はケアプランの見直し時のモニタリングやアセスメントとして使い常にケアにフィードバックしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助を支援している		

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんが来訪してくれている(3件)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GHの往診医があり、月に2回診察を受けている	入居時に今までのかかりつけ医や主治医について説明し選んでもらいますが、全員がホームの主治医に変更し月2回の往診を受けています。協力医への受診は職員が対応し、専門医への受診は家族や職員も支援を行い、情報提供と結果の報告も受け情報を共有しています。訪問看護師による健康管理や月1回歯科の往診があり、希望や必要な方が利用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回健康管理をsしてもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体法人の病院に概ね入院する方が多く相談員が間に入っているため病院との連携に・連絡が密になっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GHでの生活が難しくなりそうな利用者の家族にはその旨を折りに触れ伝えておりGHで出来ること出来ないことの説明も行っている	入居時に看取りの指針について説明し、ホームで出来る事や出来ない事等も伝え、家族の希望と協力のもとで看取りの支援をしています。終末期になれば医師や家族、看護師、職員と話し合い方針を共有し、頻回に医師に報告し指示を仰いでいます。看取り支援の経験もあり、看取りについての研修で学んだことなどを伝達しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は母体組織の定期的なものを受けている。期限が切れたものから順に再講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は2ヶ月に1回行っている	年2回、消防署の協力の下昼夜を想定した避難訓練に利用者も参加し、通報や初期消火、誘導等の訓練を実施し、また年4回行う自主訓練では機器等の点検や確認をしています。地域へは案内を配り声かけを行い、運営推進会議でも案内や報告をしています。また水や食料も備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に配慮した声かけ、尊重した声掛けを行っている	法人の接遇マナー研修に参加し、伝達研修を行い周知しています。まず職員の第一印象が重要と捉え、職員は元気に明るく笑顔での対応を心掛けています。トイレへの誘導も周りに分からないよう配慮したり、本人にとって心地よく思ってもらえるようにその方に合わせた対応に努めています。入室時のノックや言葉遣いが不適切な時は都度注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の度合いにより自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせるように努力しているが場合によっては希望に添えないことがある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室は本人が希望する店にいけるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じて出来ることをしてもらっている	おいしく食べてもらえるように利用者に合わせた食事を作る事を大切にしています。残った食材も確認して週3日位利用者と買い物に行き、食べたい物を聞き食材を選んでもらい、禁忌食や嫌いな物にも配慮して献立を立てています。利用者は食材を切ったり皮むきや切る、盛り付け、火加減の調節等、出来る事に携わっています。行事食や手作りおやつ、ホテルや中華料理店での外食の他に寿司や弁当の出前を取ったり、また個別で外食に出かけています。畑の野菜を食卓に載せ食事が楽しめるよう職員も一緒に食べています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録し介護支援部で行なわれている研修にて栄養摂取の勉強を行なっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず歯磨きを習慣つけるように取り組んでいる		

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しそれぞれにあわせた排泄援助を行っている	個々の記録を基に排泄パターンを把握し、時間やサイン、行動を察知しながらトイレで排泄できるよう個々にそった支援をしています。自立へ向かえるよう排泄用品の検討や支援の方法をカンファレンスで話し合っています。トイレ誘導を重ねることでトイレへの意思表示が見られおむつから紙パンツに変わり、立ち上がりや自力歩行でトイレに行けるようになった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事と運動に注意し、それでも解消されない場合は医師に相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で入浴出来ない時間帯はあるが、希望があればできるだけ応じられるように努めている	入浴は週2回を目途に午後から入ってもらっていますが、希望があれば午前や毎日の入浴も状況によって可能です。柚子湯や菖蒲湯で季節の湯を楽しんでもらったり、歌を歌ったり、じっくりと話してもらい会話を楽しくするようゆっくりと関わっています。拒否の方には日をずらしたり、声をかける場所を変える等で無理なく入ってもらえるよう支援し、同姓介助もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの状況に応じて昼寝や就寝をしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や服薬忘れのないように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活における役割や、レク、個別の外出などを個々に見つけて支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い時は散歩や外出を支援できるようにプランにも取り入れている	天候の良い日は散歩や買い物に出かけています。地域の行事では夏祭りや夜の盆踊りや中学校まで文化祭を見に出かけ、初詣や桜の花見、紅葉を見にドライブし季節を感じてもらっています。ホテルで行った敬老会には多くの家族が参加し共に楽しんでいます。個別の外出支援で公園や喫茶店等に出かけ家族の協力も得られています。	

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望する利用者には無くさないように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファを置き、くつろげる空間になるようにしている	玄関前には自治会より季節の花を植えたプランターが届き、利用者も野菜や花の世話をし、また門松やクリスマスツリー等季節毎の手作り作品を飾り季節を感じられるようにしています。一人で過ごせるよう椅子やテーブルを廊下に用意したり、寛げるようリビングのソファやテーブルの配置も利用者の関係性にも配慮して決めています。換気や温・湿度の管理を行い、廊下等随所にストーブを置き寒さの対策もしています。毎日掃除を行い清潔を保てるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などに1人で休める空間をつくり対応をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの物や家具を持ってきてもらうようにしている	入居時に馴染みのものを持参してほしい旨を伝えています。畳の居室とフローリングの居室があり、夫々筆筒や仏壇、鏡台、照明器具、テレビ等を持ち込まれ、自由に安全に移動できるよう配置を工夫し、その人らしい居室作りへの配慮がなされています。家族の写真を飾ったり、手作りの表札を掲げ、また趣味の大正琴や将棋等を持ち込み、好きな事をしながら居心地よく安心して過ごしてもらえるよう配慮しています。掃除は職員と一緒にしたり、出来ない所は支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカには手すりが付いており自立に役立っている。居室には名前のプレートと付けまよわないようにしている		